



平成29年度 東京都小学校体育研究会

夏季合同研究会

研究主題

三つの資質・能力の関係性を明確にし、
運動や健康についての課題に
主体的・協働的に取り組む児童の育成

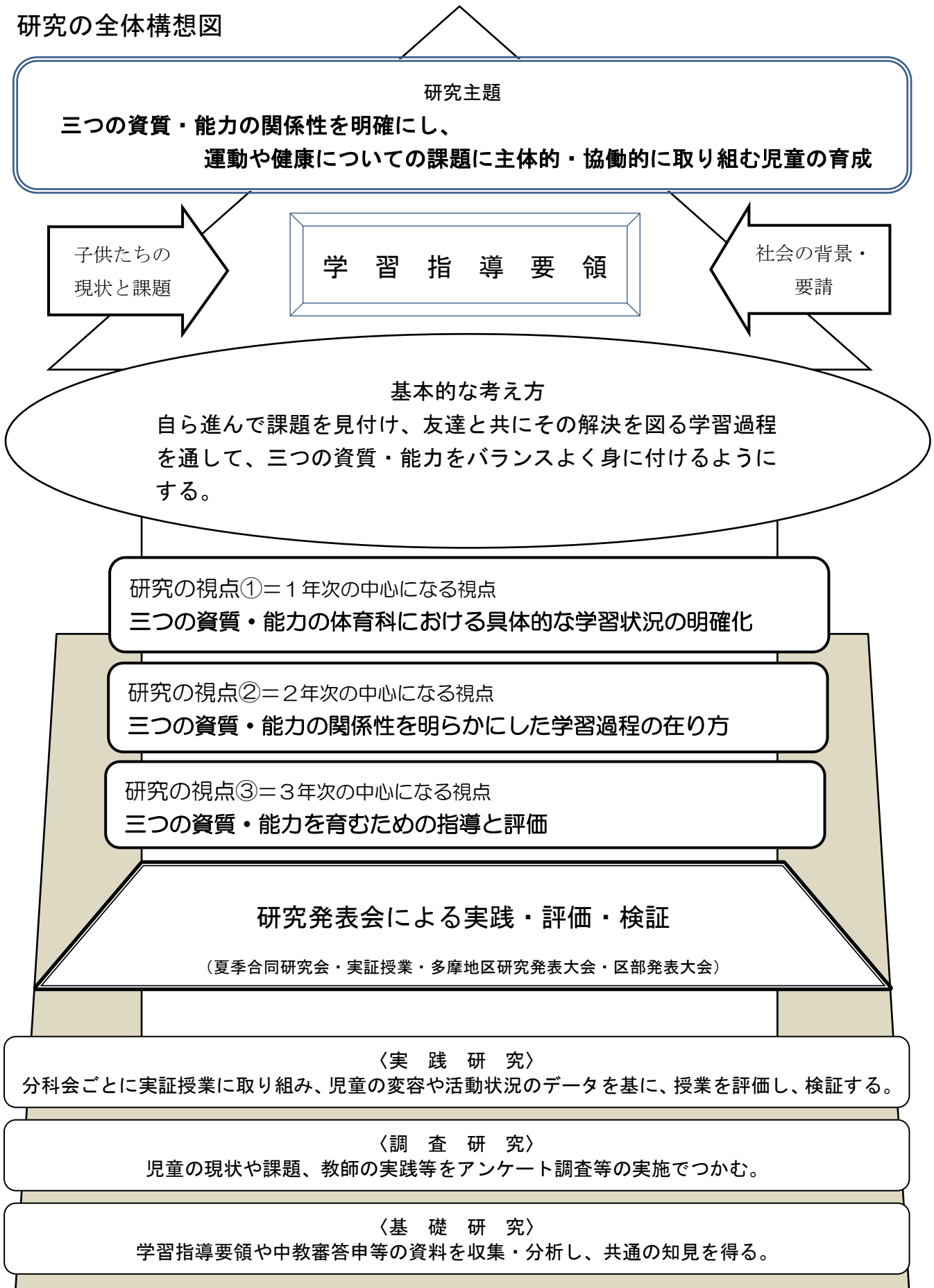
目 次

- | | | |
|---|-----------------------|----------|
| 1 | 研究経過・報告 | …P.1 |
| 2 | 各領域部会 | …P.2～21 |
| | －研究主題及び研究の視点についての考え方－ | |
| | ・器械運動系領域部会 | …P.2 |
| | ・陸上運動系領域部会 | …P.4 |
| | ・ボール運動領域部 | …P.6 |
| | ・多様な動きをつくる運動(遊び)部会 | …P.8 |
| | ・水泳系領域部会 | …P.10 |
| | ・保健領域部会 | …P.12 |
| | ・体育的活動領域部会 | …P.14 |
| | ・体力を高める運動領域部会 | …P.16 |
| | ・ゲーム領域部会 | …P.18 |
| | ・表現運動系領域部会 | …P.20 |
| 3 | 会場及び時程等 | …P.22～24 |

平成29年8月23日(水)

江東区立豊洲西小学校

研究の全体構想図



I 東京都小学校体育研究会

1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、
運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成」

2 主題設定の理由

本研究会では、これまでの研究の成果と課題及び新学習指導要領の改訂の基本方針を踏まえ、目指すべき体育の学習に取り組む児童の姿を「自ら課題解決に取り組む姿」、自ら課題解決に取り組めるようにするために重視する学習活動を「主体的・協働的な学習活動」と捉えた。児童には、運動やスポーツ、健康な生活の実践、体力向上を自らの生活の中に位置付け、これらに関する課題を自ら解決するために必要な力を育み、自らの生活の向上を図るための三つの資質・能力をバランスよく身に付ける学習が必要である。こうした学習を繰り返して行うことにより、児童は生涯にわたって能動的に学び続けることができるようになる。このことが、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現することにつながると考え、本研究主題を設定した。

3 研究の視点

新学習指導要領の全面実施までの移行措置期間に当たる時期となるため本研究主題を3か年間継続し、以下の視点によって年次を追って研究を進めて行くこととする。

(1) 研究の視点1 = 1年次の中心となる視点

- 三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況（児童の学びの姿）

(2) 研究の視点2 = 2年次の中心となる視点

- 三つの資質・能力の関係性を明らかにした上で、その学習過程の在り方

(3) 研究の視点3 = 3年次の中心となる視点

- 三つの資質・能力を育むための指導と評価

II 夏季合同研究会

1 目的

体育学習の質的向上を図り、また研究成果を普及していくために、次の2点を柱に開催する。

- 各領域部会における基礎研究及び基礎研究に基づく授業の実施案等について参加者に提案し、研究協議を行うことにより研究を深める。
- 各領域部会部員及び参加者等の授業改善に資する。

2 研究経過報告

- 総会を挟んで5回の正副部長会を開催し、夏季合同研究会に至る。

	開催日	内 容
第1回	4月20日(木)	研修：29年度の事業計画並びに各領域部会の研究計画
第2回	5月9日(火)	研修：各領域の今年度の研究の方向性について
総 会	5月11日(木)	講演：「学習指導要領改訂とこれからの体育学習について」
第3回	6月20日(火)	研修：研究の視点1の具体化と研究内容について
第4回	7月14日(金)	研修：①夏季合同研究会に向けて研究の視点1及び研究内容について ②各領域部会の資料の内容について
第5回	8月21日(月)	夏季合同研究会事前準備（領域部会別研究報告リハーサル）
夏季 合同 研究会	8月23日(水)	【領域別研究報告】 ○研究主題の考え方と研究の概要について 【研究分科会提案】 ①研究の内容（研究の視点1～3）について ②実証授業の学習指導案

III 今後の予定

1 実証授業（9・10・11月に各領域部会で開催）

2 研究発表大会

- (1) 多摩地区（11月24日 国分寺市立第七小学校）
- (2) 区部（2月16日 練馬区立豊玉小学校）

3 正副部長会（9月以降、月例開催）

器械運動系領域部会

1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、

運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成」

2 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

平成28年度は、低学年の運動遊びの視点を大切に単元計画を作成し、「思考・判断」の内容について理解を深めることができた。

本部会では、新学習指導要領の器械運動系の考え方を踏まえ、児童が「主体的・協働的に取り組む姿」は課題解決的な学習の中で現れると考えた。そして、「主体的」とは意欲的に粘り強く課題の解決に取り組むこと、「協働的」とは仲間と共に課題を解決することと考えた。また、本部会がこれまで研究してきた「自己評価活動」との関連も明らかにしながら、研究を進めて行く。

3 研究の視点1について

<運動領域における三つの資質・能力の学習状況>

	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
運動領域	各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能 ・各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 ・各種の運動を行うための基本的な技能	自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等 ・自己の能力に適した課題に気付く力 ・自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 ・思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度 ・進んで学習活動に取り組む ・約束を守り、公正に行動する ・友達と協力して活動する ・自分の役割を果たそうとする ・友達の考えや取組を認める ・安全に気を配る

器械運動系領域	器械運動系の運動や運動遊びの楽しさや喜びを味わい、その行い方や動き方を知るとともに、基本的な動きができるようになったり自分の力に合った基本的な技ができるようになったりする。	・いろいろな運動の仕方や友達のよい動きを見付けたり、伝えたりしている。 ・自分の力に合った課題や練習方法・場を選んだり、伝えたりしている。 ・自分の課題に合った練習の場や方法を選んだり、自分の力に合った技を組み合わせたり、考えたことを他者に伝えている。	運動に進んで取り組み、きまりや約束を守り、友達と助け合って運動したり、協力して準備や片付けをしたり、器械・器具の使い方などの安全を確かめようとしている。
---------	--	--	--

4 研究の内容

(1) 研究の視点1「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

○「知識及び技能」の「知識」は、現行で「思考・判断」の指導内容に含まれていたものの中から技能に関する知識（運動の行い方等）を具体的な学習状況として捉える。「技能」では、それぞれの運動を行うための基本的な技能及び運動感覚を身に付けさせていく。

- 「思考力,判断力,表現力等」では、課題解決的な学習の中で、課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、練習の場や段階を工夫したりするなどの取り組みを行い、課題解決に向けて思考し、判断したことを他者に伝える活動を通して表現力を育成していく。
- 「学びに向かう力,人間性等」では、運動を楽しく行うために、一人一人が自己の課題の解決に向け積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにしていく。

第3学年 単元名「マット運動」における具体的な子供の姿（例）

知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った技の動き方やポイントを理解している。 ・基本的な回転技や倒立技を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードをもとに、自分の力に合った技を選び、その技に応じた練習方法や練習の場を選んでいく。 ・自分のできばえを見てもらったり、友達にできばえを伝えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技ができるようになるために、練習に進んで取り組んでいる。 ・マット運動のきまりを守り、グループで協力して、技の練習をしている。

(2) 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性を踏まえた学習過程の在り方」についての考え
育む三つの「資質・能力」を明確にし、その関係性を明らかにするとともに、学習過程や一単位時間の学習の中で、どのような順序や重点を置いて指導していくのかを考えていく。

(3) 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」についての考え方
研究の視点1で明らかになった「三つの資質・能力の学習状況」と視点2で明らかになった「三つの資質・能力の関係性」から器械運動における評価規準を具体的な児童の姿で明らかにするとともに、指導と評価を一体とした手立てを提案する。

(4) 実証授業を行う学年、単元等について

- ① 学年：第3学年
- ② 単元名：マット運動
- ③ どのような授業をめざすか

低学年のマットを使った運動遊びの「技能」、「態度」、「思考・判断」の指導内容を踏まえた学習過程を作成し、児童が主体的に課題解決的な学習に取り組み、運動の楽しさや喜びを味わうことができるような授業をめざす。

(5) 研究主題に迫る手だてについて

器械運動は特性として、グループ学習や課題解決的な学習を身に付けやすい。そこで、器械運動の入り口である3年生で、時間をかけて学習の仕方を学ぶことが今後の器械運動や他の領域での学習に効果的であると考えた。

①課題解決的な学習の展開

- ・中学年での課題解決的な学習の流れを明らかにする。
(例)「知る－取り組む－見付ける・気付く－共有する（理解する）－取り組む－振り返る」

②低学年とのつながりを大切にされた器械運動の導入

- ・「技能」…前転がりと同転を比べながら技のポイントを理解する「知る時間」。
- ・「態度」…愛好的態度（進んで取り組むこと）、公正・協力、責任・参画（グループ活動や準備・片付けでの役割）、健康・安全の確認をする「オリエンテーション」。
- ・「思考・判断」…活動する場を選んだり友達のできばえを伝えたりする活動を取り入れた「取り組む時間」。

③学習の仕方を身に付ける

- ・器械運動の始まりにあたり、課題を見付け、その解決に向けた学習やグループ学習の方法を時間をかけて経験させ、指導することで学習の仕方を身に付けさせる。

陸上運動系領域部会

1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成」

2 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

昨年度までの研究を通して、高学年跳運動系・低学年跳の運動遊びにおいて、次の3点を明確にした。

- | | | |
|---|---|---|
| <p>① 発達段階に応じた「技能」「思考・判断」「関心・意欲・態度」が三位一体となった学習活動
⇒ この内容をもとに、
三つの資質・能力の具体的な姿に迫る。</p> <p>② 発達段階に応じた課題解決的な学習の進め方
⇒ この内容をもとに、
主体的・協働的な学習活動の在り方に迫る。</p> | } | <p>①②の基礎研究をもとに、児童が、
三つの資質・能力を育むことができる
主体的・協働的な学習活動
の具体的な実践例を提案していく。</p> |
|---|---|---|
- ③ 低学年・高学年での跳運動系の学習における、運動（遊び）の場や取り組み方、技能ポイント等の学習内容。 ⇒ これをもとに、**6年間の系統的な跳運動系の指導**内容を示す。

3 研究の視点1について

<運動領域における三つの資質・能力の学習状況>

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
運動領域	<p>各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 各種の運動を行うための基本的な技能 	<p>自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した課題に気付く力 自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力 	<p>運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで学習活動に取り組む 約束を守り、公正に行動する 友達と協力して活動する 自分の役割を果たそうとする 友達の考えや取組を認める 安全に気を配る

陸上運動系領域	<1・2年> 走・跳の運動遊びを楽しく行うための行い方を知るとともに、基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けることができる。	<1・2年> 走ったり、跳んだりする運動遊びの行い方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。	<1・2年> 走・跳の運動遊びに進んで取り組むとともに、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、運動をする場の安全に気を付たりしようとしている。
	<3・4年> 走・跳の運動を楽しく行うための行い方を知るとともに、基本的な動きや各種の運動の基礎となるよい動きを身に付けることができる。	<3・4年> 自分の力に合った課題を見つけ、動きを身に付けるための運動の行い方や競走(争)の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。	<3・4年> 走・跳の運動に進んで取り組むとともに、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、運動する場や用具の安全を確かめたりしようとしている。
	<5・6年> 短距離走・リレー、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳びについて、競走(争)や記録を高めるための運動の行い方を理解するとともに、基本的な技能を身に付けることができる。	<5・6年> 自分の力に合った課題の解決を目指して、練習や競走(争)の仕方、記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	<5・6年> 陸上運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、約束を守り助け合って運動をしようしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、運動する場や用具の安全に気を配ろうとしたりしようとしている。

4 研究の内容

(1) 研究の視点1「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

知識及び技能

陸上運動系の特性を味わうために必要な知識や技能であると考えます。学習のはじめは、これまでの経験の中からは得た力で運動を楽しむ。その後、学習を進めていく中で、体を巧みに操作しながら運動したり、合理的な運動の行い方を大切にしながら競走(争)したり、記録の達成を目指したりしながら新たな知識や技能を獲得し、運動を楽しんだり、運動する心地よさを味わったりする。また、技能においては、体全体を大きく、素早く、力強く動かすことが重要である。

思考力, 判断力, 表現力等

「記録の向上」「競走(争)での勝利」「目標の達成」などの目的を果たすために、競走(争)の仕方や場・練習方法の選択をしたり、運動の仕方を工夫したり、自己の能力に適した課題見つけたりする力である。陸上運動系の動き自体の面白さや心地よさを引き出させたり、仲間と競い合いながら自己の課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫させたりすることが重要である。また、考えたことを伝え合うことによって、個や集団の考えをさらに発展させる力でもあると考える。もともと個人種目である陸上運動系においては、学習の中で児童に、伝え合う必然性を感じさせることも重要である。

学びに向かう力, 人間性等

他者とよい関わりをもちながら、目標に向かって自分自身を高めたり、自分が所属するものを高めたりしようとする力であるとする。体力や技能の程度にかかわらず競走(争)に勝つことができ、できるだけ多くの児童に勝つ機会を与えられるようにしたり、勝敗の結果を受け入れたりすることをできるようにすることが重要である。また、挑戦したり、やり遂げたりすることの意義を実感したり、他者への共感や思いやりを育むことにもつながっていく、生きる力の礎となる力でもある。

第3学年 「高跳び」における具体的な児童の姿の例 ※ 詳細は分科会資料参照

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<ul style="list-style-type: none">場に応じた練習の行い方を知る。短い助走から踏切り足を決めて上方に踏み切って高く跳ぶことができる。	<ul style="list-style-type: none">動きのポイントと照らし合わせて自分の能力に適した課題を見つけている。	<ul style="list-style-type: none">競争のきまりを守り、だれとでも仲よく励まし合おうとしている。

(2) 研究の視点2について

陸上運動系の学習活動において、主体的・協働的で深い学びを実践していくための配慮すべき事項を、三つの資質・能力に関連させて示し、学習過程を作成する。

主体的な学びを実現するために

- 「まずはやってみる」ために必要な「知識・技能」を用いて運動を楽しむことができるようにする。その結果もっと運動したいという「学びに向かう力, 人間性等」が高まる。
- 「学びに向かう力, 人間性等」が高まることで、もっと「技能」を高め、運動を楽しみたくなる。
- 運動を楽しもうと「思考力・判断力」を働かせることができるようになる。その結果、新たな「知識」を獲得したり「技能」を高めたりできる。

協働的な学びを実現するために

- より技能を高めたり、より楽しく運動したりするためには、友達と一緒に取り組むことが必要であることに気付くことができるようにする。その結果「表現力」を用いて、他者と関わりながら運動に取り組んでいく。
- 互いに支え合って運動に取り組むことができるようにすることでさらに「技能」が高まる。
- 他者とよい関わりをもつことをできるようにすることで、互いに尊重し合う「学びに向かう力, 人間性等」が高まる。

深い学びを実現するために

他者と支え合いながら、より高い目標を目指していく中で、新たな課題を発見し、解決に向かいながら、さらに「三つの資質・能力」を高めるとともに、「体育の見方・考え方」を豊かなものにしていく。

(3) 研究の視点3について

実証授業学年(第3学年)における、具体的な評価規準を三つの資質・能力の観点を踏まえ作成する。そして、そのような姿が現れるような運動の場や競争の仕方を開発するとともに、評価や指導の方法を示していく。

(4) 実証授業を行う学年、単元等について

- ① 授業学年：第3学年 ② 単元名：高跳び
③ どのような授業をめざすか

- 中学年の発達段階を考慮し、競争を通して「三つの資質・能力」を高めていく。
- 競争に対するモチベーションを生かし、負けや失敗からも自己の能力に適した課題に迫ることができるようにする。
- 競争を活動の中心に置くことで、仲間との支え合いに必然性が生まれる。また、できる・できないだけでなく、一緒に行う楽しさにも触れることができるようにする。
- 体力や技能の程度にかかわらず楽しむことができるようにする。
- 陸上運動の特性を味わいつつ、中学年の発達段階に適した学習活動になるよう、競争の楽しさと記録向上の楽しさのバランスを考える。
- 第3学年と第4学年の違い、低学年・中学年・高学年の違いなど、あいまいに捉われがちな中学年の指導内容を明確にしていく。

(5) 研究主題に迫る手だてについて

- ① 「三つの資質・能力」を計画的に指導することができる学習過程を開発する。
② 児童が主体的・協働的な学習を行うことができる競争の仕方(運動の場)を開発する。

ボ ー ル 運 動 領 域 部 会

1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成」

2 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

本部会では、研究主題を前段と後段に分けて考え、前段を「手立て」、後段を「目指す児童像」と捉えた。前段の手立てについては、資質・能力の3つの柱を踏まえ、「何を学ぶのか」を明確にした「簡易化されたゲーム」を、全ての児童にとって魅力的に感じられるように工夫することが大切である。また、主体的・協働的に児童が学習できるように、児童同士の対話が生まれる場や時間、対話の視点等を設定することを重点に、研究を進めていく。

後段の目指す児童について、本部会では、チームの中で自分にできそうなこと（貢献できること）を思考し、自分からチームの仲間へ声をかけてプレーし、チームで課題を解決する喜びを味わう児童を目指していきたい。

また、昨年度の課題として「チームの特徴に応じた作戦」をどのようにとらえるべきか、児童へどのように提示すべきか、指導の仕方をどのようにしていくべきかが挙げられた。そこで、今年度も「チームの特徴に応じた作戦を選ぶこと（思考力、判断力、表現力等）」を重点に研究を進めていく。また、ボール運動で育むべき資質・能力と児童の実態を踏まえて、ゴール型の中でも陣取り型に分類される「フラッグフットボール」の教材の可能性も探っていく。

3 研究の視点1について

<運動領域における三つの資質・能力の学習状況>

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
運 動 領 域	<p>各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 ・各種の運動を行うための基本的な技能 	<p>自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力, 判断力, 表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題に気付く力 ・自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 ・思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力 	<p>運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで学習活動に取り組む ・約束を守り、公正に行動する ・友達と協力して活動する ・自分の役割を果たそうとする ・友達の考えや取組を認める ・安全に気を配る

ボ ー ル 運 動 領 域	<p>3つの型の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付け、簡易化されたゲームをすることができる。</p>	<p>ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりしているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝え合っている。</p>	<p>運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。</p>
---------------------------------	--	---	--

4 研究の内容

(1) 研究の視点1「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

ボール運動の特性を「集団対集団で攻防をすること」と捉え、簡易化されたゲームを通して、三つの資質・能力をバランスよく育むことを目指す。そのために、3つの型に応じた第5・6学年の具体的な児童の学習状況の系統性を踏まえ、具体的な子どもの姿として明らかにする。また、今まで同様、ゲームを通して学ぶということを前提にし、簡易化されたゲームの示し方や「ゲーム→振り返り→ゲーム」という一単位時間の流れを大切にす。昨年までの研究に加え、「思考・判断したことを他者に伝える」力を育むためにも、意図的で計画的に必要な感を児童が感じる話し合いの場（必要感のある対話）を設ける。

第6学年 単元名 ゴール型「フラッグフットボール」における具体的な児童の姿（例）

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<ul style="list-style-type: none"> フラッグフットボールの行い方を理解している。 得点しやすい場所でパスを受けて相手陣地に侵入をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> チームに合った作戦を選んだり、立てたりしている。 作戦について振り返り、チームのよかったところを伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団対集団で競い合うための練習やゲームに積極的に取り組んでいる。 ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしている。

(2) 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性を踏まえた学習過程の在り方」についての考え方

ボール運動で育む「資質・能力」を明確にし、その関係性を明らかにするとともに、年間指導計画や学習過程、一単位時間の学習の中で、それぞれどのように重点を置き、三つの資質・能力をバランスよく育んでいくのか、考えていく。

(3) 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」についての考え方

研究の視点1・2で明らかになった「学習状況」と「関係性」から、ボール運動における評価規準を具体的な児童の姿で明らかにするとともに、学習過程における指導の順序や重点を明確にして、指導と評価を一体とした手立てを提案する。

(4) 実証授業を行う学年、単元等について

- ① 学年 第6学年
- ② 単元名 ゴール型「フラッグフットボール」
- ③ どのような授業をめざすか

学習内容を明確にしたゲームを開発し、全ての児童が主体的にゲームに取り組むとともに、対話を生み出す意図的な時間（ハドル）を設定することにより、チームの味方一人一人のよさを生かした作戦をゲームの状況に応じて選び、その選んだ作戦が遂行できると児童が実感できる授業を目指す。

(5) 研究主題に迫る手立てについて

①魅力的なゲームの工夫

主体的・協働的にゲームに取り組む児童を目指すために、まずはどの児童も参加しやすいゲームを工夫する。参加しやすいとは、ルールがわかりやすく、今もっている力でゲームに取り組めることである。また、意図的に作戦を考える時間（ハドル）を設定し、必要感のある対話が生まれるゲームを目指す。

②年間指導計画・単元計画・1単位時間の流れ

ボール運動で育む「資質・能力」を型ごとに整理し、それらを系統的に育むことができる2年間の年間指導計画を考える。また、単元計画ではフラッグフットボールで育む「資質・能力」を明確にし、重点を設けた計画を提案する。

③学習カード

作戦を「動き方」「ボール操作」「役割分担」であると捉え、一人一人のよさを生かした作戦が立てやすく、選びやすく、振り返りが効果的に行える学習カードを提案する。

(6) その他

今年度の研究主題のもと、昨年度の課題「作戦の捉え」、「ルールの工夫（教材開発）」を踏まえ、新しい視点でこれまでの研究内容を見直し、特に「作戦を選び」「作戦を遂行」している児童の姿を具体的に示していく。そのために、作戦を立てる観点を右のように明確にし、児童に提示していく。



多様な動きをつくる運動（遊び）部会

1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成」

2 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

- (1) 「三つの資質・能力」は、児童がもともと持っているとして捉えている。そのうち、「学びに向かう力、人間性等」に着目して研究を進めていきたい。学習指導要領総則に「他の二つの資質・能力をどのような方向性で働かせるかを決定付ける重要な要素」と記載があるからである。また、多様な動きをつくる運動（遊び）では、児童一人一人の運動欲求を満たし、意欲を持続させることが、多様な動きを身に付けることにつながると考えているからである。
- (2) これまでの研究では、「知る」、「広げる」、「増やす」、「高める」という、第1学年から第4学年の4年間を見通した課題解決的な学習の流れを明らかにしてきた。今年度は、4年間の学習の中で、「学びに向かう力、人間性等」の「友達の考えや取組を認める」という「共生」の視点を踏まえながら、「主体的・協働的」に取り組む児童の姿を明らかにしていきたい。

3 研究の視点1について

<運動領域における三つの資質・能力の学習状況>

	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
運動領域	各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能 ・各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 ・各種の運動を行うための基本的な技能	自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等 ・自己の能力に適した課題に気付く力 ・自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 ・思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度 ・進んで学習活動に取り組む ・約束を守り、公正に行動する ・友達と協力して活動する ・自分の役割を果たそうとする ・友達の考えや取組を認める ・安全に気を配る

多様な動きをつくる運動（遊び）	<1・2年> ○多様な動きをつくる運動遊びの楽しい行い方を知っている。 ○運動遊びを経験した結果として、体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けることができる。	<1・2年> ○多様な動きをつくる運動遊びの行い方を工夫したり選んだりしている。 (姿勢、方向、人数、用具など) ○友達のよい動きを見付けている。	<1・2年> ○多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ○順番やきまりを守り「いつでもどこでも誰とでも」仲よく運動をしようとしている。 ○友達と協力して用具の準備・片付けをしようとしている。 ○友達の考えや取組を認めようとしている。 ○場の安全に気を付けようとしている。
	<3・4年> ○多様な動きをつくる運動の楽しい行い方を知っている。 ○運動に取り組んだ結果として、体の基本的な動きやそれらを組み合わせた動き、各種の運動の基礎となる動きを身に付けることができる。	<3・4年> ○自分ができるようになりたい動きに取り組み、多様な動きをつくる運動の行い方を工夫したり選んだりしている。 (姿勢、方向、人数、用具、移動の仕方など) ○友達のよい動きを見付け、自分の運動に取り入れている。	<3・4年> ○多様な動きをつくる運動に進んで取り組もうとしている。 ○きまりを守り「いつでもどこでも誰とでも」励まし合って運動をしようとしている。 ○友達と協力して用具の準備・片付けをしようとしている。 ○友達の考えや取組を認めようとしている。 ○運動をする場や用具の安全を確かめようとしている。

4 研究の内容

(1) 研究の視点1 「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

- 「知識及び運動」については、誰もができそうな易しい動きとの出会いを大切にしたい。まず、「自らやってみたいと思う楽しい運動（遊び）に出会い、取り組んだ結果、体の基本的な動きができるようになること」を目指したい。
- 「思考力,判断力,表現力等」については、自分ができるようになりたい動きに取り組み、試行錯誤を繰り返し、課題を解決するために友達と関わり、伝え合う活動に迫りたい。
- 「学びに向かう力,人間性等」については、全ての資質・能力及び学習の土台となる原動力であると考え。そこで、「いつでも・どこでも・誰とでも楽しく運動し、前向きに学習に取り組む態度」とし、涵養していきたい。



(三つの資質・能力イメージ図)

第2学年及び第3学年「多様な動きをつくる運動（遊び）【用具：ボール】」における具体的な児童の姿（例）

	知識及び運動	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを落とさないうで捕ることができたよ。 ・いろいろな捕り方ができたよ。 ・何度もできたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かっこいい。 ・自分もやってみたい。 ・どうやるんだろう。 ・まねしてみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊ぶと楽しいね。 ・やってみたい。 ・遊ぶスペースに気を付けたよ。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・「投げ上げたボールを移動しながら捕ることができたよ。」 ・「さっきより高く投げ上げて遠くまで移動しながら捕ることができたよ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうやってやるの？」 ・「こつは何？教えて？」 ・「こうやってやるんだよ。」 ・「〇〇さんの動きをまねしよう。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達と運動すると楽しいね。」 ・「やってみたい。」 ・「運動する場や用具の使い方を確かめたよ。」

(2) 研究の視点2 「三つの資質・能力の関係性を踏まえた学習過程の在り方」についての考え方

1学期に行った第1学年の授業実践では、単元の前半・中盤・後半における教師の働き掛け、一単位時間における教師の重点的な支援、第2時と第3時をつなぐ教師の働き掛けなど、児童の学習状況に応じて、教師のアプローチの仕方が異なることが分かった。このことから、第1学年の学習過程を作成し、具体的な学習状況を示すことにした。実証授業に向けて、第2学年及び第3学年の学習過程を作成する。

(3) 研究の視点3 「三つの資質・能力を育むための指導と評価」についての考え方

三つの資質・能力の具体的な学習状況を示すとともに、その手だてを明確にして有効性を追えば、それが評価につながる。3つの研究の視点は全て連動させて考えていく必要があると考える。

(4) 実証授業を行う学年、単元等について

- ① 第2学年、第3学年
- ② 多様な動きをつくる運動遊び、多様な動きをつくる運動
- ③ 運動遊びと運動における具体的な学習状況の相違点を明らかにする。
 - ・運動（遊び）の経験とともに、児童の学びの質（運動、態度、思考・判断）が高まっていく姿を示し、第2学年から第3学年へと、学習が繋がっていく姿を明らかにする。

(5) 研究主題に迫るための手だてについて

- 「楽しさの散りばめ」
- 児童の「学びに向かう力,人間性等」に着目した指導計画の再構築
- よい動きを共有する時間の充実
- 伝え合う活動の展開

水泳系領域部会

1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成」

2 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

昨年度までに児童の発達の段階に応じた課題解決的な単元計画を作成し実施することで、児童の態度、技能、思考・判断の変容が見られた。友達と協力して学び合いながら、自己の課題を設定し、活動を選択していく学習の流れを確立することができた。

今年度は、**課題解決的な学習を再度見直し**、三つの資質・能力を育むことのできる学習活動を構築する。また、新たに加わった「知識」「表現力」「学びに向かう力・人間性」等の要素を踏まえ、発達の段階に応じた**三つの資質・能力の内容について明確にする**。既習事項を生かしながら学習を進める水泳系の系統性を大切にされた指導を展開し、主体的・協働的に育む児童を育成していく必要がある。

三つの資質・能力が育つような**学習活動を考案し、検証する**ことを通して主体的・協働的に取り組む児童を育成する教材の工夫を図る。単元計画のどこでどんな力を育むことができるのか、そのために教師はどのような関わり、声かけをしていくか、**各時間の重点として指導する内容を考え、実践し検証する**。

3 研究の視点1について

＜運動領域または保健領域等における三つの資質・能力の学習状況＞

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
運動領域	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能 各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 各種の運動を行うための基本的な技能 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等 自己の能力に適した課題に気付く力 自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度 進んで学習活動に取り組む・約束を守り、公正に行動する 友達と協力して活動する 自分の役割を果たそうとする 友達の考えや取組を認める 安全に気を配る

水泳系領域	<p><1・2年></p> <ul style="list-style-type: none"> 水遊びを楽しく行うための基本的な動きや運動遊びの行い方を理解することができる 水遊びを通して各種の運動の基礎となる動きを身に付けることができる 	<p><1・2年></p> <ul style="list-style-type: none"> 水中での運動遊びの場や行い方を選んだり、工夫したりしている 友達のよい動きを見付けたり、まねしたりしている 	<p><1・2年></p> <ul style="list-style-type: none"> 水遊びに進んで取り組む 順番や決まりを守り仲よく運動をしようとする 水遊びの心得を守って安全に気を付けようとしている
	<p><3・4年></p> <ul style="list-style-type: none"> 浮く・泳ぐ運動を楽しく行うための基本的な動きや各種の運動の行い方を理解することができる 浮く・泳ぐ運動を楽しく行うための基本的な動きや各種の運動を身に付けることができる 	<p><3・4年></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の力に合った課題をもっている 動きを身に付けるための運動の行い方を工夫している 行い方を他者に伝えている 	<p><3・4年></p> <ul style="list-style-type: none"> 浮く・泳ぐ運動に進んで取り組む 仲よく運動をしようとする。 浮く・泳ぐ運動の心得を守って安全を確かめようとしている
	<p><5・6年></p> <ul style="list-style-type: none"> クロール、平泳ぎについて、続けて長く泳ぐための運動の行い方を理解することができる クロール、平泳ぎについて、続けて長く泳ぐための基本的な技能を身に付けることができる 	<p><5・6年></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の力に合った課題をもっている 課題解決のための練習の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫している 行い方を他者に伝えている 	<p><5・6年></p> <ul style="list-style-type: none"> 水泳の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組む 友達と助け合って水泳をしようとしている 水泳の心得を守って安全に気を配ろうとしている

4 研究の内容

(1) 研究の視点1 「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

知識と技能は、密接なかかわりがあると考え。本部会では、「分かってできる」、「できて分かる」水泳学習を目指し、「学び合い」を実践してきた。「学び合い」では、知識や技能が発揮され、さらに学びが深まる。「学び合い」を大切に学習過程では、運動の行い方の理解が大きなポイントを占める。そのため、この行い方を技能と関連させ知識として習得できるようにする必要がある。

思考力、判断力、表現力等については、知識及び技能を獲得する過程で発揮される力であると考え。自己の課題を設定し、活動を選択しながら取り組むことで、技能の向上や知識の理解を図ることができる。また、その過程で表現力が重要な役割を果たす。他者と伝え合ったり、振り返ったりする活動を通して、学びがさらに深まると考える。そのため、表現力の発揮場面を効果的に設定する必要がある。

学びに向かう力、人間性等については、学びを進める原動力となると考える。個人的な達成型の運動と考えられる水泳ではあるが、本部会ではグループ学習を通して、他者を認める、共に成長する喜びを味わうという共生の視点を大切にしている。また、生命にかかわる運動で安全に対する意識・態度については、「水泳の心得」として単元を通して大切にすることがある。

第5学年 単元名「水泳」における具体的な子供の姿（例）

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 浮く方法、進む方法、呼吸の方法を知る ・ 呼吸しながら進む ・ クロール、平泳ぎで泳ぐ ・ 続けて長く泳ぐ方法を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に気付き、設定する ・ 解決方法を予想し、考える ・ 比較して考える ・ 練習方法を選択する ・ 解決策を実施する ・ 活動を工夫する ・ 自分の考えを伝える ・ 振り返る（相手と、自分と） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ やってみたい、挑戦してみたいと思う ・ 粘り強く取り組む ・ 自己の役割を果たす ・ 水泳運動の心得を守る ・ 友達の意見を受け入れる ・ 友達と励まし合う ・ 友達や仲間を認め、共に課題達成、成長を喜び合う ・ 安全・健康に気を配る

(2) 研究の視点2 「三つの資質・能力の関係性を踏まえた学習過程の在り方」についての考え方

→ 2学年を通した課題解決的な学習過程を考える。高学年の場合、5年生は「課題をつかむ」、6年生は「工夫して課題に取り組む」ことを重点的に取り上げる。そのため、5年生においては課題把握、6年生においては課題解決の時間を多く設定する。

(3) 研究の視点3 「三つの資質・能力を育むための指導と評価」についての考え方

→ 児童の主体的、協働的な学びがより充実したものになるために、児童の気付きを促すような発問、言葉かけを検討し、指導と評価の一体化を図る。学習カードの工夫、学習資料の充実を図る。

(4) 実証授業を行う学年、単元等について

第5学年「水泳」… 1・2年生の「水遊び」、3・4年生の「浮く・泳ぐ運動」の既習事項や既習経験、5年生での映像資料やグループ学習を生かして自らの泳法の課題について気付く時間を大切に、解決を図る水泳の授業を目指す。

(5) 研究主題に迫る手だてについて

- ・ 単元を通して行う小集団学習
- ・ オリエンテーションの設定（「解決したい課題」を見付けられるようにする）
- ・ 基礎的・基本的な感覚、動きを育む活動（単元を通して行う「リズム水泳」）
- ・ 自己の記録に挑戦する活動（単元を通して行う「スイム駅伝」）
- ・ 課題解決的な学習（課題に向かって試行錯誤、検証、修正する学習）
- ・ 行い方を知り、気付き、伝える学習（課題解決的な学習を充実させる小集団学習の学習サイクル）
- ・ 振り返りの工夫（結果や過程を小集団で振り返る）

(6) その他

- ・ 教師の見取り、言葉かけの工夫（三つの資質能力の育成、涵養を図る教師の支援・関わり方）

保健領域部会

1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、運動や健康についての課題に

主体的・協働的に取り組む児童の育成」

2 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

①「主体的・協働的な学習活動」は、児童の学習が「健康課題に関する課題解決的な学習」によって導かれるものであると考えるということから、保健領域部では、これからも課題解決的な学習を毎時間計画していく。正しい知識を習得、活用させることで身近な生活を振り返り課題を解決していくことで、深い学びを目指していく。

②「三つの資質・能力」をバランスよく確実に身に付けさせるために、どこで何に重点をおいていくと良いかを明確にする。また、養護教諭との連携やICT教材の活用、伝え合う時間や認め合う時間の設定など効果的な指導方法の工夫、充実を図っていく。

3 研究の視点1について

<保健領域における三つの資質・能力の学習状況>

	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
保健領域	<p>身近な生活における健康・安全についての基礎的な知識や技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活、発育・発達、心の健康、けがの防止、病気の予防に関する基礎的な知識 ・不安や悩みの対処やけがの手当に関する基礎的な技能 	<p>身近な健康課題に気付き、健康を保持増進するための情報を活用し、課題解決する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な健康課題に気付く力 ・健康課題に関する情報を集める力 ・健康課題の解決方法を予想し考える力 ・学んだことを自己の生活に生かす力 ・学んだことや健康に関する自分の考えを伝える力 	<p>健康の大切さを認識し、健康で楽しく明るい生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康に関心をもつ ・自己の健康の保持増進のために協力して活動する ・自他の心身の発育 ・発達などを肯定的に捉える

保健領域	<p><3年> 健康な生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。</p> <p><4年> 体の発育・発達について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。</p> <p><5年> 心の健康やけがの防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解したり、技能を身につけたりしている。</p> <p><6年> 病気の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。</p>	<p><3年> 健康な生活について課題に気付き、解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表したり伝えたりしている。</p> <p><4年> 体の発育・発達について課題に気付き、解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表したり伝えたりしている。</p> <p><5年> 心の健康やけがの防止について課題に気付き、解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表したり伝えたりしている。</p> <p><6年> 病気の予防について課題に気付き、解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表したり伝えたりしている。</p>	<p><3年> 健康な生活について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。</p> <p><4年> 体の発育・発達について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。</p> <p><5年> 心の健康やけがの防止について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。</p> <p><6年> 病気の予防について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。</p>
------	---	--	--

4 研究の内容

(1) 研究の視点1 「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

「知識及び技能」

基礎的な知識の他に、悩みの対処やけがの手当てなどの基礎的な技能を育んだり、運動と健康が密接に関連していることについての具体的な考えをもたせたりするために、養護教諭との連携やICT教材を活用することで、実践的に理解させていく。

「思考力, 判断力, 表現力等」

知識を活用して課題を解決する力の他に、自分の健康課題に気付く力や学習したことや考えを伝える力を育むために、身近な生活における課題を設定し、伝え合いを意識的に行っていく。

「学びに向かう力, 人間性等」

自分を大切に思い、健康な生活に向けての気持ちをもつ他に、協力したり、周りの人の成長を肯定的にとらえる気持ちを育むために、協働的な活動を取り入れて関わりを増やしたり、認め合うことを学習の中だけでなく、生活の中でも意識させていきたい。

第6学年 単元名「病気の予防」における具体的な子供の姿（例）

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
・病気の予防について基礎的な知識を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ事を利用して課題解決をする ・自分の健康課題に気づく ・自分の考えを伝える。 ・相手の考えを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分をよりよく成長させる思いをもつ。 ・自分や周りの人のために、病原体がもとになっておこる病気を予防しようという思いをもつ。

(2) 研究の視点2 「三つの資質・能力の関係性を踏まえた学習課程の在り方」についての考え方

1年目の実証授業から分かったことを取り入れて、三つの資質・能力の関係性やバランスを考えた課題解決的な学習過程を再考していく。また、児童にとって考えたいという意欲が高まる、身近な課題についても研究していきたい。

(3) 研究の視点3 「三つの資質・能力を育むための指導と評価」についての考え方

三つの資質・能力について、具体的な児童の姿を明らかにし、1単位時間ごとにまとめる。教師が授業中にどのように支援、評価していけばよいかも研究し、一緒にまとめていく。

(4) 実証授業を行う学年、単元等について

- ① 6年生
- ② 病気の予防
- ③ 目指す授業
 - ・児童が課題を自分に身近なものとしてとらえる授業
 - ・学んだ知識とそれぞれがもっている知識をつなげていく授業
 - ・4（1）の子供の姿が見られる授業

1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成」

2 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

昨年度までの成果と課題

- 各学校の実態に応じた活動計画を企画し実施できたこと（成果）
- 「思考・判断」の充実のために、「1つの運動遊びにつき2回の活動」を設定したこと（成果）
- 本部会に寄せられる、様々なニーズに応えられるような支援の仕方をより明確にすること（課題）

主題の設定理由を受けて

○「(意図的・計画的な運動遊びに出会わせて)、子供が遊びに夢中になって取り組む姿」

教師が意図的・計画的に仕組みで、子供を外に連れ出し、遊びに夢中にさせる中で、運動に親しむ力を育み、仲間との関わりを楽しみを見出すことができ、結果として体力の向上につながると考える。様々な運動遊びに子供が夢中になって取り組む姿が「主体的・協働的に取り組む」姿であると考え。

「主体的」…「いつでも どこでも」

「協働的」…「だれとでも」

「夢中になって遊ぶ」→ 生涯にわたる豊かなスポーツライフ

3 研究の視点1について

<運動領域における三つの資質・能力の学習状況>

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
運動領域	各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能 ・各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 ・各種の運動を行うための基本的な技能	自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等 ・自己の能力に適した課題に気付く力 ・自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 ・思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度 ・進んで学習活動に取り組む ・約束を守り、公正に行動する ・友達と協力して活動する ・自分の役割を果たそうとする ・友達の考えや取組を認める ・安全に気を配る

体育的活動領域	・自分に合った運動遊びを楽しむ行い方を知っている。 ・今もっている力で夢中になって遊んでいる。	・運動遊びの行い方を選んだり工夫したりしている。 (行い方・関わり方)	・運動遊びに進んで取り組むとともに、友達と関わり合って遊ぶうとしている。
---------	--	--	--------------------------------------

4 研究の内容

(1) 研究の視点1「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

- 「知識及び技能」の「知識」については、「運動遊びを楽しむ行い方を知ることができる」ことがスタートになるので大切にしたい。なお、行い方が簡単であればあるほど日常化につながりやすいと考える。「技能」は、教科体育のように何かを身に付けることが目的ではないため、「今もっている力で夢中になって遊ぶことができる」ととらえ、夢中になって遊んだ結果、技能や体力も高まるととらえている。
- 「思考力, 判断力, 表現力等」については、昨年度までの研究で、思考・判断の充実のため「2回の活動を1サイクル」で行うことに取り組んできた。1回の休み時間は短いため、2回で1サイクルにすることにより、夢中になって遊ぶことができ、思考・判断を働かせて遊ぶことができる。また、「他者に伝える力」については、運動遊びを行う上で起こる問題や、より楽しくするために考えたことを言葉や動作で伝える姿として、夢中になって遊ぶ中で自然に見られる姿を見取っていききたい。今年度は、「児童が自ら運動遊びを企画し、実施している(創造する)姿」を見どころにしていきたい。

○「学びに向かう力，人間性等」については、体育的活動で一番重視していききたい資質・能力である。体育科では、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することが目指されている。子供が運動の楽しさや喜びに触れ、「もっとやってみたい」「もっと楽しみたい」といった運動に対する前向きな気持ちや自信を引き出すことができれば、それが豊かなスポーツライフを推進するエンジンとなり、体育固有の指導内容である三つの資質・能力「学びに向かう力，人間性等」につながると考える。「もっと運動したい」「みんなと楽しみたい」「継続して運動に取り組みたい」と子供たちの意識が方向付けられるかを大切にしていきたい。

<第5学年 活動名「5年わくわく遊びタイム」における具体的な子供の姿（例）>

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った運動遊びを楽しむ行い方を知っている。 ・今もっている力で夢中になって遊んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った運動遊びの行い方に気付いている。 ・自分に合った運動遊びを選んでいる。 ・運動遊びを「より楽しくする」ために行い方を工夫している。 ・運動遊びを行う上で起こる問題や、より楽しくするために考えたことを言葉や動作で友達に伝えている。 ・運動遊びを企画し、実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで遊ぼうとしている。 ・約束を守り、公正に遊ぼうとしている。 ・友達と協力して遊ぼうとしている。 ・自分の役割を果たそうとしている。 ・友達の考えや取組を認めようとしている。 ・安全に気を配ろうとしている。

(2) 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性を踏まえた学習過程のあり方」についての考え方

体育的活動では、意図的・計画的な運動遊びに出会わせることを大切にしている。三つの資質・能力の中で、「学びに向かう力，人間性等」を重視していききたい。遊びの中で仲間と関わり合う場面が頻出し、その中で他者と豊かに関わり合う態度や互いを認め合ったり相手の気持ちと通じ合える力を身に付けたりするという「学びに向かう力，人間性等」が涵養されると、「知識・技能」の習得や「思考力，判断力，表現力等」の育成につながっていくという活動過程を考えていきたい。

(3) 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」についての考え方

・「意図的・計画的な運動遊びに出会わせること」で仲間との関わりを楽しみを見いだすことができ、そして自然に体力が付き、運動の二極化や体力低下といった課題を克服できる。

→具体的には、

- 子供を外に連れ出し、遊びに夢中にさせる
- 様々な運動遊びに夢中になって取り組ませる ⇒ 夢中になって楽しめていることを評価
- 指導者がプレイリーダーとして上手に関わる

(4) 実証授業を行う学年、活動等について

- ① 学年：第5学年
- ② 活動名：「5年わくわく遊びタイム」（学年による体育的活動）
- ③ どのような活動をめざすか：児童が自ら運動遊びを企画し、実施する（創造する）活動計画

(5) 研究主題に迫る手だてについて

- ①実証活動校の実態に合った活動計画
- ②プレイリーダー（指導者）の役割の明確化

(6) その他

- カリキュラム・マネジメントの在り方を踏まえた活動計画の検討
 - ・社会に開かれた教育課程（家庭・地域との連携）
 - ・教科のみではなく、学校教育活動全体で育成（教科間・教科外との関連）

体力を高める運動領域部会

1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成」

2 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

昨年度の研究の成果の一つは、「体力を高める運動の学び方」を児童が習得したことである。今年度の研究では、いつ、どのように知識を習得するのかについて明確にする。これは、運動との出会いや児童の課題設定に大きくかかわることであり、主体的に運動に取り組む児童を育成する上で大切な視点である。また、児童の「思考力、判断力、表現力等」の高め方を研究する。特に、「表現力」については、「他者に伝える力」を育成するための指導法及び児童の変容の把握方法を明らかにする。このことは、「学びに向かう力、人間性等」とのつながりがあり、「他者とのかかわり」という大きな視点で研究を進めていく。具体的には、児童同士の言葉掛けの内容や場面を明らかにしたり、学習環境を工夫したりして研究主題に迫るものとする。

3 研究の視点1について

<運動領域における三つの資質・能力の学習状況>

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
運動領域	各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能 ・各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 ・各種の運動を行うための基本的な技能	自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力、判断力、表現力等 ・自己の能力に適した課題に気付く力 ・自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 ・思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度 ・進んで学習活動に取り組む ・約束を守り、公正に行動する ・友達と協力して活動する ・自分の役割を果たそうとする ・友達の考えや取組を認める ・安全に気を配る
体力を高める運動領域	<5・6年> ○体力を高める必要性、体力要素、適時性、体力の高め方等を理解することができる。 ○体力を高める運動について、ねらいに合った動き（動作）を身に付けることができる。	<5・6年> ○自分の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫したり選んだりしている。 ○動きのポイントや選び方について仲間に言葉や動作で伝えている。	<5・6年> ○体力を高めることができるよう、進んで取り組むとともに、約束を守り助け合って運動をしようとしたり、運動する場や用具の安全に気を配ろうとしたりしている。 ○仲間からのアドバイスを受け入れたり、友達の考えや取組を認めて称賛したり、励ましたりしている。

4 研究の内容

(1) 研究の視点1「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

- 「知識及び技能」については、単に体力の高め方についての知識を習得することにとどまらず、身体表現を通して体力を高める運動の学び方に関する「理解」を深めていくことが重要であり、今後もより一層大切にしたい資質・能力である。これは、中学校との接続を図る上でも大切な視点である。

- 「思考力、判断力、表現力等」については、昨年度までの研究の成果である「自己の体力についての課題解決に向けて思考し判断すること」を大切にしつつ、「他者に伝える力」をより一層育成していく。今年度は「他者への伝え方をどのように指導するか」「他者に伝えていることをどのようにして教師が把握するか」について研究していく。
- 「学びに向かう力、人間性等」については、「仲間の体力についての課題解決に向けた考えや取組を認めて称賛したり励ましたりする態度」をより一層涵養していくことが大切である。「他者に伝える力」とのつながりがあり、研究の視点の一つとしたい。

第5学年 単元名「体力を高める運動」における具体的な子供の姿（例）

知識及び運動	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
体力を高めるためには、自分の体力に合わせて、運動を選んだり、動きを工夫したりすることが大事なんだね。	〇〇くんは、長なわが目の前を通り過ぎたときに、タイミングよくなわに入ると跳びやすいと思うよ。	□□さんは、前よりも8の字跳びがとても上手になったね。次は、逆回し跳びに挑戦してみたら。

(2) 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性を踏まえた学習過程の在り方」についての考え方

第5学年では、2時間または3時間のまとまりで指導と評価を連続して行い、思考力、判断力、表現力等の育成を目指す。具体的には、巧みな動きを高めるための運動を第3～5時及び第6～8時に3時間ずつ、力強い動きを高めるための運動を第9・10時に2時間取り扱う。第11・12時では、動きを選択する活動を2時間設定し、思考力、判断力、表現力等のさらなる向上を目指す。体の柔らかさ及び動きを持続する能力は、運動の特性を考慮し、一定時間継続して取り扱い、動きの習得を目指す。

第6学年では、第5学年で経験した動きを選択する活動を単元の後半で4時間設定し、指導と評価の一体化を図りながら、思考力、判断力、表現力等のより一層の向上を目指し、中学校への接続を図る。

なお、第5学年及び第6学年では、単元開始の第3時にオリエンテーションを実施し、運動の必要性、体力要素、適時性、体力の高め方等の知識の習得を図る。

(3) 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」についての考え方

各観点における児童一人一人の学習状況を的確に把握するため、1時間ごとのねらいに応じて評価の重点化を図る。関心・意欲・態度は、早い段階での定着が望ましいことから、単元初期の新しい運動に取り組む場面で重点的に評価する。思考・判断は、指導後の変容を見取るため、連続または短い期間で見取り、児童が動きを工夫したり選択したりする場面で重点的に評価していくようにする。運動の技能は、定着や伸びを確認するため、一定の期間を置いて4つの体力要素をバランスよく評価する。

(4) 実証授業を行う学年、単元等について

- ① 第5学年 ② 単元名「体力を高める運動」
- ③ 他者とかかわって体力を高めていこうとする姿を追究する。

(5) 研究主題に迫る手だてについて

- 児童同士の言葉掛け ○ 学習環境（伝え合う時間「◇◇タイム」等）の工夫
- 学習カードの工夫 ○ グループニングの工夫

ゲーム領域部会

1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成」

2 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

昨年度までの研究の成果は、児童の思考の変容を見通した指導計画の作成ができたこと、振り返りの時間を活用し思考・判断を高めることができたことである。課題は、児童にとってより易しくて分かりやすいゲームを提案することである。

今年度は、児童が今もっている力で夢中になって取り組める易しいゲームを提案していく。そしてゲーム領域の「集団対集団で勝敗を競い合う」という特性を味わう中で、体育の見方・考え方を働かせた、ゲームの行い方、基本的な動きに関する「知識及び技能」、ゲームにおける課題の発見・解決等のための「思考力、判断力、表現力等」、主体的にゲームに取り組む態度等の「学びに向かう力、人間性等」の力の育成を図っていく。また、今年度も、児童が「もっと規則を工夫したい」「作戦をチーム内で共有したい」という思いを伝え合う「振り返り」の時間に研究の重点を置き、「他者に伝える力」「友達のを考えを受容すること」を互いに高め合いながら課題解決に取り組んでいけるよう研究を進めていく。

3 研究の視点1について

＜運動領域における三つの資質・能力の学習状況＞

	知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
運動領域	各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能 ・各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 ・各種の運動を行うための基本的な技能	自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等 ・自己の能力に適した課題に気付く力 ・自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 ・思考し判断したことを、言葉や動作等で 他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく 楽しい生活を営むための態度 ・進んで学習活動に取り組む ・約束を守り、公正に行動する ・友達と協力して活動する ・自分の役割を果たそうとする ・友達の考えや取組を認める ・安全に気を配る

ゲーム領域	＜1・2年＞ ・ボールゲームや鬼遊びの行い方や動き方を理解している。 ・ボールゲームでは、的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームにおいて、簡単なボール操作やボールを持たないときの動きができる。 ・鬼遊びでは、一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの動きができる。 ＜3・4年＞ ・ゴール型ゲームやネット型ゲーム、ベースボール型ゲームの行い方やゲームの型の特徴に合った攻め方を理解している。 ・易しいゲームを楽しく行うための基本的なボール操作や簡単な動きができる。	＜1・2年＞ ・得点の方法などの規則を選んでいる。 ・攻め方を選んだり、見付けたりしている。 ＜3・4年＞ ・易しいゲームを行うためのゲームの規則を選んでいる。 ・簡単な作戦を立てている。	＜1・2年＞ ・ゲームに進んで取り組もうとしている。 ・運動の順番やきまりを守り、勝敗の結果を受け入れて、友達と仲よく運動しようとしている。 ・友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ・ゲームを行う場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。 ＜3・4年＞ ・ゲームに進んで取り組もうとしている。 ・規則を守り、友達と励まし合って練習やゲームをしようとしたり、勝敗の結果を受け入れようとしたりしている。 ・友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ・ゲームを行う場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。
-------	---	---	--

＜参考文献＞国立教育政策研究所「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」【小学校体育】（平成23年11月）より

4 研究の内容

(1) 研究の視点1「三つの資質・能力の学習状況」についての考え方

- 「知識及び技能」については、児童がゲームの特性を味わう中で、ゲームの行い方や基本的なボール操作、ボールを持たないときの動きについての知識を習得することができるようにする。また、ゲームをさらに楽しむための基本的な動きを身に付けていけるよう、研究を進めていく。
- 「思考力,判断力,表現力等」については、どうしたらみんなが楽しめるゲームになるかを考える「規則の工夫」と、どうしたら相手に勝てるかを考える「簡単な作戦」を大切にしながら、今年度は、ゲーム間の「振り返り」を中心とした「他者に伝える力」の育成を重点に研究を進めていく。
- 「学びに向かう力,人間性等」については、これまでも重視してきた「勝敗を受け入れる」、「友達と協力したり、友達のよさを称賛したりすること」に加え、「友達の考えを受容すること」を重点に研究を進めていく。これらは、「思考力,判断力,表現力等」における「他者に伝える力」との関わりが強く、その関係性についても研究を進めていく。

＜今年度行う「陣地を取り合うゲーム」における3つの資質・能力の学習状況＞

知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ●ゲームの行い方を理解している。 ●基本的なボール操作やボールを持たないときの動きについて理解している。 ●ゲームを楽しむための基本的な動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●易しいゲームを行うためのゲームの規則を選んでいる。 ●ゲームの型の特徴に合った攻め方を知り、簡単な作戦を立てている。 ●ゲームの規則や簡単な作戦についての自分の考えを友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ゲームに進んで取り組もうとしている。 ●勝敗の結果を受け入れ、誰とでも仲よくゲームに取り組もうとしている。 ●友達の考えを認め、受け入れようとしている。

(2) 研究の視点2についての考え方

6年間を見通した計画的かつ系統的な指導を行うためには、まず、1・2年の低学年と、3・4年の中学年でそれぞれ2年間を見通した授業づくりを行っていく。そして、2年生と3年生、4年生と5年生の繋ぎ目の学年では、学習内容のつながりを重視したゲーム開発や授業づくりを行っていく。特にボール運動への接続については、遊びからスポーツ文化へのつながりを大切にして授業づくりを行っていく。また、一単位時間ごとの「振り返り」の在り方に重点を置いて指導計画を作成し、児童の学習状況に応じた、最も有効な振り返りの視点、教師の支援を明らかにしていく。

(3) 研究の視点3についての考え方

三つの資質・能力について、「児童の具体的な姿（十分満足できる、おおむね満足できる、努力を要する）」を明確に設定する。そして、児童の具体的な学習状況と照らし合わせてそれぞれの資質・能力の習得状況を把握・評価し、その後の的確な指導や有効な支援につなげていく。

(4) 実証授業を行う学年、単元等について

- ① 第三学年 ② 「陣地を取り合うゴール型ゲーム」
- ③ すべての児童が「ゲームが楽しい！勝ちたい！」という思いをもって主体的にゲームに取り組み、個人が考えた「規則の工夫」や「簡単な作戦」を友達と伝え合い、課題解決への道筋を自分たちで発見することができる授業を目指して研究を進めていく。

(5) 研究主題に迫る手だてについて

- はじめの規則が簡単で工夫がしやすく、どの児童も夢中になって取り組むことのできるゲームの開発
- 児童の学習状況に応じた指導計画の作成
- 「他者に伝える力」、「友達の考えを受容する態度」を育む「振り返り」
- 「児童の具体的な姿」を設定した上での評価と指導

表現運動系領域部会

1 研究主題

「三つの資質・能力の関係性を明確にし、運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成」

2 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方

昨年度の研究成果と課題

- リズムダンスにおけるよい動きの整理と児童のつまずきに対する支援の提言（成果）
- 思考・判断の指導内容の整理と思考・判断を促す言葉掛けの提言（成果）
- 「習得」→「活用」という学び方を身に付けさせるための留意点を明確にすること（課題）
- 実践的で分かりやすい研究内容を提示し、一般化するための資料等を作成すること（課題）

新学習指導要領の改訂を踏まえ

- 表現運動系領域における三つの資質・能力の具体的な姿を明らかにすること
- 主体的・協働的に学ぶ姿を具体的に示し、それを引き出す学習過程の作成

以上の観点から、今年度は、表現運動系領域における三つの資質・能力の具体的な姿を明らかにしていくことを重点とし、研究を進めていくとともに、表現リズム遊び・表現運動の6年間の三つの資質・能力の系統性を示していく。

主体的・協働的に学ぶ姿を、本部会では進んで友達と課題解決的な学習に取り組む姿と考えた。「主体的」とは、児童が自分の能力に適した課題を見付け、運動に取り組むこと。また、課題の解決のための活動を選ぶこと。そして、粘り強く意欲的に課題の解決に取り組むとともに、自らの活動を振り返りつつ、課題を修正したり、新たな課題を修正したり、新たに課題を設定したりし、運動に取り組む姿と考えた。「協働的」とは、友達と関わりながら踊ることや友達と動きを見合ったり、踊りのよかったところを伝え合ったりしながら運動に取り組む姿と考えた。

研究主題をもとに、三つの資質・能力が育成できる学習活動を提案すること。そして、主体的・協働的に学ぶ姿を引き出す課題解決的な学習を研究していく。

3 研究の視点1について

＜運動領域における三つの資質・能力の学習状況＞

	知識や技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
運動領域	各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能 ・各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 ・各種の運動を行うための基本的な技能	自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり、工夫したりする思考力・判断力・表現力等 ・自己の能力に適した課題に気付く力 ・自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 ・思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度 ・進んで学習活動に取り組む ・約束を守り、公正に行動する ・友達と協力して活動する ・自分の役割を果たそうとする ・友達の考えや取組を認める ・安全に気を配る

表現運動系領域	〈1・2年〉 表現リズム遊びの楽しさに触れ、その行い方を知り、題材になりきったり、リズムに乗ったりして楽しく踊るための動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けることができる。 〈3・4年〉 自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ることができる。(3・4年、5・6年) 表現の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知り、表したい感じを表現したり、リズムの特徴を捉えたりして踊るための動きを身に付けることができる。 〈5・6年〉 表現の楽しさや喜びに触れ、その行い方を理解し、表したい感じを表現したり踊りの特徴を捉えたりして踊るための動きを身に付けることができる。	〈1・2年〉 簡単な踊り方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。 〈3・4年〉 自分の力に合った課題をもち、練習や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。 〈5・6年〉 自己やグループの課題の解決を目指して、練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	〈1・2年〉 表現リズム遊びに進んで取り組むとともに、だれとでも仲よく踊ろうとしたり、運動をする場の安全に気を付けようとしていたりしている。 〈3・4年〉 表現運動に進んで取り組むとともに、だれとでも仲よく運動をしようとしていたり、運動する場の安全を確かめようとしていたりしている。また、友達の動きや考えを認めようとしていたりしている。 〈5・6年〉 表現運動に積極的に取り組むとともに、互いのよさを認め合い助け合って練習や発表をしようとしていたり、運動する場の安全に気を配ろうとしていたりしている。また、互いの動きや考えのよさを認め合おうとしていたりしている。
---------	---	---	--

4 研究の内容

(1) 研究の視点1「三つの資質・能力の具体的な学習状況」についての考え方

- 「知識や技能」については、表現運動の特性を味わうために必要な技能とそれを身に付けるために必要な知識であると考えた。学習の初めの段階では、教師の提示する易しい運動から表現リズム遊び・表現運動における楽しさや喜びに触れ、知識を活用して、その行い方を知ったり、理解したりする。運動に取り組むことを通して、即興的な身体表現能力やリズムに乗って踊る能力、コミュニケーション能力などを培っていくようにしていく。
- 「思考力、判断力、表現力等」については、簡単な踊り方を工夫することや自己やグループの課題の解決に向けて、課題を見付けること。課題の解決の仕方を選んだり、考えたりする力と考えた。そして、課題の解決のために考えたことを分かりやすく他者に伝えることができるよう、伝える方法、場の設定、指導方法や評価方法などを検討していく。
- 「学びに向かう力、人間性等」については、「いつでも、どこでも、誰とでも」という、これまでの部会で大切にしている考えをもとに、進んで運動に取り組むこと、友達のよさを認めようとする態度と考えた。そのために、仲間を認め合うような学級の雰囲気づくりはもちろん、授業の導入では、心と体をほぐすような活動を取り入れ、進んで運動に取り組む態度を養うようにする。

第3学年 単元名「リズムダンス」における具体的な子供の姿(例)

知識や技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・ロックの「ウンタ ウンタ」の後打ちを知り、おへそを中心に全身で弾んで踊っている。 ・おへそを上下に弾ませ、全身で跳ぶように体を弾ませながら踊っている。 ・サンバの「ウンタッタ」のリズムを知り、おへそを前後にスイングして踊っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のよい動きをクラスや友達に紹介している。 ・ペアグループのよかったところやおもしろかったと感じたことを伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムダンスに進んで取り組んでいる。 ・友達と励まし合って踊っている。 ・誰とでも気持ちよく踊ったり交流したりしている。 ・友達とぶつからないように安全を確かめながら踊っている。

(2) 研究の視点2「三つの資質・能力の関係性を踏まえた学習過程の在り方」についての考え方

三つの資質・能力がバランスよく身に付くよう、リズムダンスにおける課題解決的な学習を見直す。そのために、単元の導入では、まず「学びに向かう力、人間性等」を身に付けさせることを重点とし、心と体をほぐすような活動を取り入れ、進んで運動に取り組めるようにする。易しい運動から表現運動における楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、全身でリズムに乗って踊る学習に取り組ませる。楽しく運動を行うために、課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、誰とでも仲よく踊ったり、友達の動きや考えを認めたりするような活動を展開していく。

(3) 研究の視点3「三つの資質・能力を育むための指導と評価」についての考え方

現行学習指導要領における評価の観点をもとに、評価に盛り込むべき内容と、評価規準を再検討する。学習活動に即した評価規準をより多くの教員が活用できるものを作成する。そこで、多様な評価場面や評価方法について検討し、児童の学習状況を適切に評価し、指導の改善につながるができるようにしていく。

(4) 実証授業を行う学年、単元等について

① 第3学年 ② 単元名 「リズムダンス」

③ どのような授業をめざすか

○三つの資質・能力の具体的な学習状況、主体的・協働的に学ぶ姿が見られる授業。

○軽快なロックやサンバのリズムに乗って、仲間とかかわって踊るリズムダンスの学習。

(5) 学習を促す手だてについて

○「知識及び技能」を身に付けるための手だて

- ・教師が易しい動きや運動の行い方を提示する
- ・リズムに乗って踊ることが苦手な児童等に配慮するための例を示す

○「思考力・判断力・表現力等」を育む手だて

- ・「習得」→「活用」という流れを基本とし、二つの段階で構成する単元計画に基づいた授業を構成する
- ・課題を見付ける、解決のための活動を選ぶ、課題解決のために考えたことを伝える時間を実態に即して設定する。

○「学びに向かう力・人間性等」を養う手だて

- ・授業の導入時で行う心と体をほぐす運動（円形コミュニケーションやリズム遊び等）を導入する

研究会の日程

1 全体会（会場・体育館）

8時45分～9時20分

(1) 開会の言葉

東京都小学校体育研究会副会長 矢部 崇

(2) 会長挨拶

東京都小学校体育研究会会長 橋本 茂樹

(3) 来賓挨拶

教育庁指導部体育健康教育担当課長 佐藤 浩 様

江東区教育委員会教育長 岩佐 哲男 様

NPO法人 健康・体育活性化センター理事長 藤崎 敬 様

(4) 講師・来賓紹介

東京都小学校体育連盟副理事長 寺村 尚彦

(5) 研究経過報告

東京都小学校体育研究会調査研究部長 本田 幸彦

領域別研究報告

9時20分～9時45分

○事務連絡

※ 分科会会場へ移動

2 研究分科会①

9時55分～11時45分

領 域 名	会 場
器械運動系	算数少人数室 (3階)
陸上運動系	ランチルーム (4階)
ボール運動	体育館 (2階)

※分科会の進行

(1) 提 案

(2) 研究協議

(3) 指導・助言

講師 東京都及び各区市町村の

統括指導主事・指導主事・副校長

3 昼 食 11時45分～12時45分

4 研究分科会②

12時45分～14時35分

領 域 名	会 場
多様な動きをつくる運動（遊び）	体育館 (2階)
水泳系	算数少人数室 (3階)
保健	ランチルーム (4階)
体育的活動	1年生教室 (2階)

5 研究分科会③

14時45分～16時35分

領 域 名	会 場
体力を高める運動	ランチルーム (4階)
ゲーム	体育館 (2階)
表現運動系	算数少人数室 (3階)

6 全体会（放送）

16時35分～16時40分

(1) 閉会の言葉

東京都小学校体育研究会副会長 中村 豊

(2) 事務連絡